

月刊
まち・コミ
9月号

1997年9月30日発行（毎月1回）
発行
阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション

〒653 神戸市長田区御蔵通 5-5 兵庫商会 3F
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961
e-mail koitirou@mvi.biglobe.ne.jp
URL <http://sakuraia.c.u-tokyo.ac.jp/mikura/>

1000日目の「現実」

～何がおこり、何が見えたのか～



10月12日で震災から1000日目になります（奇しくも神戸市長選告示日）。

今、被災地では4回目の復興公営住宅の一元化募集（市・県営・公社・公団、同時の募集）が行われています。神戸市内では戸数が1万5千戸を上回る「過去最大級」の募集ですが、その多くは被害の大きかった市街地ではなく「郊外」に建てられており、仮設に住む多くの方々は「元の地」に戻ることはままならないと思われま

す。かたや、その「被害の大きかった市街地」では地域・個人の「格差」が一層広がり、繁華街の「復興」ぶりとは裏腹に住宅地では、再建できない多くの方々がいらっしやいます。そして、人のいないまちでは経済も鈍りがちです。

時間の経過と共に見えてきた、「見えにくい現実」。

それは間違いなく震災後の様々な諸策の結果です。そしてそれはまた現在の日本の「現在」であり、「限界」ともいえるのでしょうか。

高度に近代化した都市が直面した初の直下型地震は、あまりにも大きな犠牲を払いながら、現代の社会や私たちに不足している様々な「課題」を浮き上がらせました。

震災で何が起こり、どう対処し、それはどのような結果を生み出したのか。1000日を経過したいま、あらためて具体的に検証しなければならないでしょう。まち・コミでは今後も専門家の方々に協力を仰ぎながら「検証」を行いたく思います。

「神戸の事はよその事」としないためにも、皆様のご意見・ご提案をぜひともお聞かせ下さい。
（小野 幸一郎）

もくじ

P 1

◎1000日目の現実

P 2

- 「もやい」オープン
- 御蔵の街かど

P 3

- ☆「焼け跡のくすぶり」一回
- ☆「神戸世相」

P 4

- ◎先月の動き「まち・コミ」
- 今月も行く
- ★今までご協力頂いた皆さまへ

共生・共創センター

もやい

いよいよオープン!

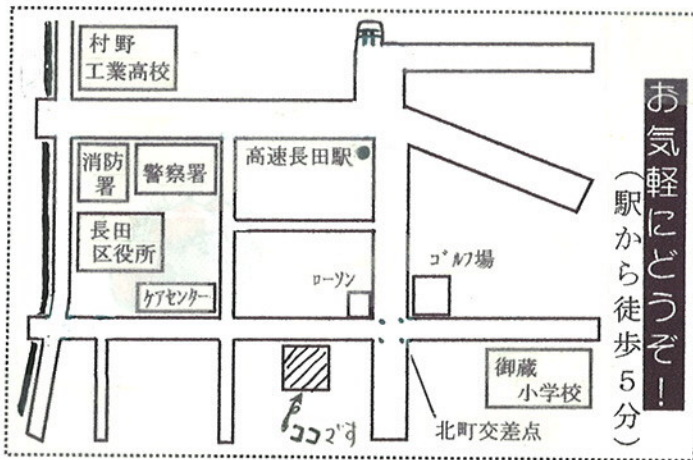
当事務所のすぐ近くのボランティア・グループ“阪神・淡路大震災「仮設」NGO連絡会が中心となって運営している、共生・共創センター“もやい”が9月23日正式オープンしました。

被災して、仮設住宅におられる方、まちで頑張っている方、そんな方たちの生きがいづくり、気軽に集まることが出来る場づくりが出来れば…。そんな思いから生まれたスペースです。

中はリサイクルショップや手作り品の販売・手織（さおり織り）体験コーナー・情報コーナーと、たたみ敷きのフリースペースです。

皆様、お気軽にお立ち寄り下さい!

※貴方の手作り作品も大募集していま〜す。



共生共創センター もやい

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

078-578-6921



御蔵の街かど

～猛火の中で
焼け残った家から学ぶ
現代下町銭湯考?【上】



※『全国銭湯利用者組合』
ってあるらしいです。誰か
その実体を教えて下さ〜い。

浅野

御蔵5・6丁目の一番南の端のと街かどに、一軒のたばこ屋さんがあります。その建物は鉄骨三階建てで、築約30年ですが、なんと阪神大震災では周辺一体が、大きなビルも含めて焼け野原になったにもかかわらず、その老夫婦のお宅だけ何時間もの猛火に耐えて残ったのでした。

お話を伺った結果その理由は、車社会に対応するためダンプにつっこまれても壊れないようにと注文した深い基礎、小さな窓、アルミサッシほどすぐ火に溶けたりしない鉄の窓枠、細かい網の入った厚いガラス、この辺りではないでしょうか!?

しかし唯一焼けてしまったものがあります。それは屋上にあったお風呂。「えっ、何で屋上の屋外にお風呂が!?!」と思いませんか?

私は驚きました。「えっ、まさか昭和40年始めに建てた鉄骨コンクリートの家にお風呂を作らなかったんですか〜…」なるほど

確かに20年前にはまだこのたばこ屋さんのすぐ向かい側には銭湯があったということなのですが、周辺の長屋が当時はお風呂無しなのはわかるが、こんな建物でもそうなのかと、改めて銭湯の存在と生活の感覚、そして地域住民のコミュニケーションの場としての役割について考えてしまいました。

私も小さい頃銭湯暮らしで、仕事の合間に母に連れられて夕方お風呂に行くと、だいたい一定時間に皆は入りに来るので、そこは一種のサロン状態です。友達のお母さんのおなかの手術の跡を見て「〇〇子」は帝王切開で生まれたのよ、と教えてもらったなあ…。

私の地元同様、この辺も昔は一・二丁に一軒は銭湯があったようです。裸のつきあいの豊かさはもちろん、安否確認にもなるこのすばらしさ。「××さんのおばあちゃん今日はみえないねえ。」なんか、自然なんですよね、色々。(つづく)

焼け跡のくすぶり〜一回〜

【震災一〇〇〇日を前にして】

今私が一日の大半を過ごす長田区御管地区では、区画整理にかかったが故になかなか住民が元に戻ってこれられない、更地が広がる虫食い状態が続いている。私たち住民は、ここで二度に亘る慰霊祭や花まつり、夏祭り、等々を多くのボランティアの皆さんと、全国の支援を受けながらやらせていただいた。その時はにぎやかなのですが、終わってしまふとしーんとして、ガレキは片づいたがやはり主のいない廢墟の街の様相になってしまう。

現在必死になって街の再生に務めているが、行政とかなか噛み合わない。土地の権利関係の錯綜と行政の持っている情報の開示・説明義務の無いいらだたしさ、住民は唯一行政に優る「人間関係」においてのみ活路を見いださねばならないもどかしさ。それも、ともすればこの長い空白と時間差による微妙な感情の変化に飲み込まれそうになが、これらを乗り越えて、私たちは共同化住宅の模索をしている。建築専門の先生方も、本当に辛抱強く正義感のみで我々の街のために尽くして頂いている。様々な背景を持った家族同士が共に住まう共同住宅を作っていく作業はガラス細工の様に、どこかで「個」が前に出過ぎるとすぐ壊れてしまふだろう。行政が支えるでもなく、ともすればそれが住民側から見れば障害にさえなる。何と困難なことに立ち向かっているのだろうかと思うことの連続である。

でも、「この共同住宅が御管の、長田のともし火になれば、否住民の方々の希望と夢を実現させることになれば」の一念あるのみだ。

株兵庫商会 田中保三

神戸世相～きのう・きょう～



◎友が丘仮設住宅、神戸で初、月末に閉鎖他(仮設)団地も“過疎化”、(公営住宅)4次募集後統廃合も(9.25、神戸新聞)

◎垂水・玉居殿仮設住宅、市内初の「自然解消」(9.28、神戸新聞)

神戸市が民有地を借りて建設した友が丘仮設住宅が借用期限の延長が所有者側の利用計画により困難なため閉鎖されることに。また市内66カ所の仮設が入居率6割を切り過疎化が進行。過疎化により起こりうる孤独死や犯罪の増加などへの対策が必要とされている。不安を抱く住民から、人の多い仮設住宅への移転を望む声も出始めた。垂水区玉居殿仮設住宅(11戸)では9月中にも入居者全員が恒久住宅に移転し解消される予定。

◎復興住宅(第4次)一元募集、「私も被災者」、「仮設優先」に憤る県外居住者(9.26、神戸新聞)

約130世帯の被災者が暮らす岡山県赤磐郡の県営山陽団地ではこの1年間に転居できたのはわずかに約20世帯。「どの住宅も仮設優先と書いてあり、しかも仮設(入居者)は第3希望まで出せる」と憤る県外被災者。

◎営業再開した中小企業、4割が震災前下回る、2割は融資返せず、県信用保証協会窓口金融機関に調査(9.17、神戸新聞)

今年6月時点で震災関連融資を完了していない3万4,597社から有効回答を得た(有効回答率82.3%、飲食・小売り業含む)。融資を受けたにも係わらず休・廃業に追い込まれた企業が446社に上る。回復の見通しについては半数以上がめど立たずと回答。

◎神戸市「空き地情報」提供の呼びかけ、“震災空き地”原っぱに転用、遊び場・防災広場・住宅用地…(9.24、神戸新聞)

震災で建物が倒壊し、その後権利関係や資金難で再建できずに残った空き地で、ゴミ投棄がひどかったりバイクや車が放置されていたりとの苦情が昨年だけで600件に上ったため。市が借り上げ又は買い取って柔軟な有効利用を考える方針。

まち・コムも行く!



8月は、御蔵のお祭りのお手伝いの後、お盆休み中は「体制建て直し週間」と称して話し合いやら片づけやら。そうして「御蔵学校」だったわけです。めまぐるしくバタバタと始まった97年度でしたが、秋風がそっと窓から入り込んでくる季節になって、やっと落ち着いてきました。そうして改めて周りと自分を見渡すと今まで何を考えてきたのか、何を考えそして伝えて行こうとするのか、突きつけられる問いの重さよ…。神戸の街は市長選に向けて盛り上がりつつありません。

8月

- 3日 まつり会場準備
- 5日 津軽三味線のタベ
- 6日 御蔵盆踊り
- 10日 まつりの片づけ
共同化準備会（第4回）
- 11日 公的支援署名活動の会参加
- 12日 体制建共生共創センター話し合い
- 13日 体制建て直し週間（?）
- 20日 夏まつりの打ち上げ
- 22日 御蔵学校（～24日）
- 23日 地藏盆
- 24日 共同化準備会（第6回）
- 30日 朝日カルチャーセンター
神戸研修（～31）
共同化準備会（第7回）

協賛

泉洞寺 桜井朝教（長野県）
岩田直子（東京都）
大島由美子（京都府）
大昌寺 青島孝宗（静岡県）
中島保（京都府）
澤田修一郎（京都府）
遠藤安弘 千葉大学教授（愛知県）
柳生利夫（埼玉県）
北川明（東京都）

松村久 下関唐戸魚市場(株)(山口県)
中村實(東京都)
小野幸子(神奈川県)
熊谷組(神戸市)
匿名(神戸市)
匿名

協力

酒井道雄 神戸学院大講師(神戸市)
上田諭信(神戸市、コーヒ-提供)
石本用紙店(神戸市、食材提供)

ありがとうございます
※敬称は略させて頂きました

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。現在私たちのグループの台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。



今後の被災地のまち復興のための活動への、ご支援をどうぞおねがいたします。

【郵便振替口座番号】00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」

また、この通信紙を継続的にお読みにになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

☆すっかり涼しくなりました。もうすぐ紅葉の季節ですね。今年こそは見に行きたい……………。

カンパ等でご協力頂いている方、いつも御礼が遅くなってすみません。(小野)

☆まだまだ人生よちよち歩きしだしたばかりのわたくしですが、最近なんて多くの友人たち、また大人の方々の存在に囲まれているのかと、ありがたいなとしみじみと感じ入っている次第です。幸せもんだなあ…。秋だなあ、秋と言えばやっぱり食べ物の秋であらう。おいしいもんたべたい!(浅野)